



# 水素を活用した燃料電池鉄道車両の実用化推進事業

2019年度要求額  
300百万円（新規）

## 背景・目的

- 水素は、再生可能エネルギーをはじめ多様なエネルギー源から製造が可能であり、様々な形態で貯蔵・輸送できることに加え、利用段階でCO2の排出がないことから、地球温暖化対策やエネルギー安全保障に資するエネルギーとして期待されている。
- その一方、水素社会実現に向けては、水素の供給コストが高いことが課題であり、水素の需要拡大を図り、水素の供給コストを低減していく必要がある。
- この点、公共交通機関等を燃料電池車両化していくことは、水素の大量の需要拡大による供給コストの低減につながり、水素を利用した脱炭素社会の実現を大きく前進させることが期待される。
- また、本事業で実用化を図る燃料電池鉄道車両は、非電化区間での導入をはじめ、鉄道輸送からの二酸化炭素排出量を大幅に削減できることが可能である。途上国をはじめ、物流における鉄道の役割は世界的に大きく、日本の優れた技術による途上国支援の一翼を担うものとしても期待される。

## 事業概要

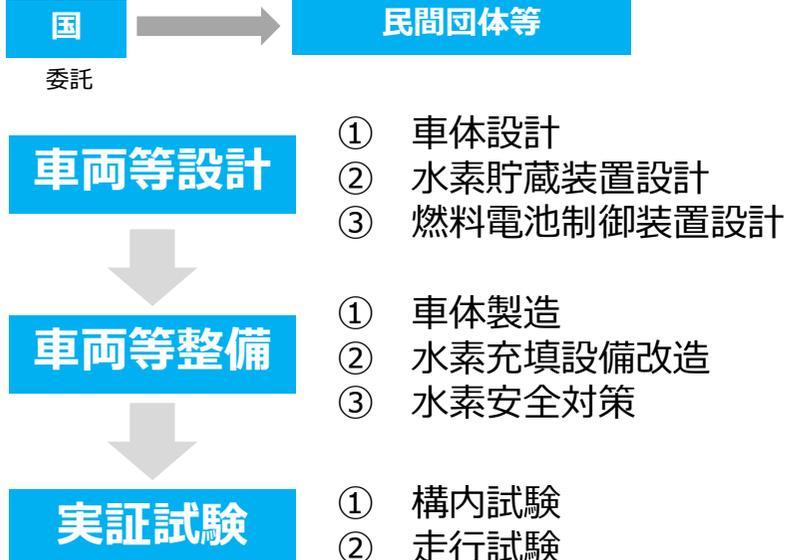
- 燃料電池鉄道車両の実用化・社会実装に向けた各種実証・評価に必要な設備の整備を実施する。
- 実フィールドを使った走行実証を行い、課題の整理・実用化に向けた道筋を確立させる。

## 期待される効果

- 公共交通機関の分野における水素利用拡大の推進により、エネルギー起源のCO2排出の削減に貢献する。

## 事業スキーム

実施期間：6年間（2019年度～2024年度）



## 事業目的・概要等

## イメージ

### 燃料電池鉄道車両 H2

